



「自分にはよいところがいっぱいある」と思える学校に！

文部科学省が実施した今年度の全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。コロナ禍で一度は落ち込んだ「自分にはよいところがあると思う」や「将来の夢や目標がある」などの自己肯定感に関する質問調査の回答状況がここ数年注目されてきました。

将来の夢や目標が「ある」と答えた児童生徒は、小6が82.3%（前年度比0.4ポイント増）、中3で65.2%（同1ポイント増）だった。「自分によりよいところがあると思う」を答えた割合は、小中ともに85%を超え、増加傾向を維持した。（8月1日付け 神戸新聞から兵庫県の状況の報道）

コロナ禍を経て、学校での様々な取組が戻ってきました。学校では集団活動や異年齢のふれあい体験やささまざまな人との出会いや本物にふれる体験が子どもたちの自己肯定感や挑戦心を育み、子どもたちにとって必要な力になっていることを感じます。

同じ質問への本校児童の回答状況を見てみると、

- 「自分にはよいところがあると思いますか」 ⇒「ある」89.4%（全国平均 86.9%）
- 「将来の夢や目標を持っていますか」 ⇒「持っている」85.6%（全国平均 83.1%）
- 「人が困っているときは、進んで助けていますか」⇒「はい」99%（全国平均 93.7%）
- 「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」
⇒「思う」85.6%（全国平均 81.3%）
- 「人の役立つ人間になりたいと思いますか」 ⇒「思う」99%（全国平均 96.4%）

三田小学校は地域の教育力に支えられた学校です。2学期も学校支援ボランティアの皆さんの協力や地域の様々な団体、組織と連携・協働する教科学習や総合的な学習の時間の取組を進めていき、その中で「自分にはよいところがいっぱいある!」と自分のよさや可能性に胸を張り、挑戦していく子どもたちの姿を引き出していきたいと考えています。なお、本校の全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた今後の取組は、改めてお伝えします。

平和を考えたこの夏、「一人一人のほんの少しの行動から・・・」

今年の夏休みは、平和を考える機会が多くありました。学校近くの三田ふるさと学習館でも「戦争と三田のくらし」展が開催され、三田空襲のことや戦時中の三田の暮らしの展示がありました。この夏、私は80年前の7月19日に、三田小学校で三田空襲を経験された地域の方から直接お話を聞く機会がありました。昭和11年生まれて、当時9歳だったそうです。終戦から80年を迎え、当時の経験を語ってくださる方は少なくなっているそうです。

6年生は9月22日から修学旅行で広島に出向きます。広島で様々なことを学び、10月には三田空襲を経験された地域の方をゲストティーチャーにお招きし、三田で起こった空襲のことや戦争中の三田小の生活の様子などを語っていただく学習会を開催することにしています。

6年生一人一人が平和の学習を通して考えたことを自分の言葉で伝えいくことでしょう。8月6日、広島の小6年生2人が平和記念式典で宣言した「平和への誓い」には、

世界では今もどこかで戦争が起きています。大切な人を失い、生きることに絶望している人々がたくさんいます。

その事実を自分のこととして考え、平和について関心をもつこと。多様性を認め、相手を理解しようとする。一人一人の考えに寄り添い、思いやりの心で話し合うことができれば、傷つき、悲しい思いをする人がいなくなるはずですよ。

周りの人たちのために、ほんの少し行動をすることが、いずれ世界の平和につながるのではないのでしょうか。

とありました。一人一人のほんの少しの行動が世界の平和につながることを願っています。

《9月の主な行事予定》

2日(火) 修学旅行説明会(6年生保護者) 3日(水) 委員会活動(5・6年)

5日(金) 6年生平和学習(被爆体験伝承者講話)

11日(木) 5年生ものづくり体験(指導:ダイハツ工業)、1~3年放課後学習

12日(金) 4年生校外学習(神戸方面) 18日(木) 代表委員会

19日(金) 6年生短縮授業(下校:13:45)

22日(月)~23日(火・祝) 6年生修学旅行(広島方面、宮島)

24日(水) 3年生環境体験学習(田園スポーツセンター)、6年生振替休業日

26日(金) 避難訓練 29日(月) 短縮授業日(職員会議・研修の為) 全校下校 14:00

30日(火) スマイルタイム(児童会)

◎三田市理科・生活科作品展 期間:9月26日~10月7日 会場:人と自然の博物館

夏休み明けの子どもは普段通りですか?

2学期がスタートし、目を輝かせて学校生活を送れる子がいる一方で、生活リズムがつかめずにいる子も出てくるものです。8月29日付け神戸新聞に「子どもは普段通りですか」という社説がありました。「食事の量が減った、朝なかなか起きてこない、『消えたい』などのネガティブなことを言う」。こうした異変は子どもが「つらさ」を抱えているサインかもしれません」とありました。長い夏休みに身につけてしまった生活リズムを取り戻すのは難しいものです。学校では子どもたちに、ゆっくりと体や気持ちを整えていけばいいから大丈夫!と伝えていきます。

この時期は、子どもの声にしっかりと耳を傾けていただき、気になることがあれば、担任や養護教諭にご相談ください。相談にお越しいただいても大丈夫です。スクールカウンセラーに相談することもできます。それでも、家族だからこそ冷静な対応が難しい場合もあると思います。

厚生労働省の「まもろうよこころ」では、交流サイト(SNS)や電話での相談窓口が多数紹介されています。参考までにお伝えします。⇒ [まもろうよ こころ | 厚生労働省](#)